

Asia Indicators

発表日: 2021年1月4日(月)

韓国、輸出は2年強ぶりの二桁%プラスの伸び(Asia Weekly(12/28~1/1))

～外需の堅調さがうかがえる一方、ディスインフレ基調がくすぶる展開が続いている～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/28(月)	(マレーシア)11月輸出(前年比)	+4.3%	+3.9%	+0.2%
	11月輸入(前年比)	▲9.0%	▲4.8%	▲6.0%
	(香港)11月輸出(前年比)	+5.6%	--	▲1.1%
	11月輸入(前年比)	+5.1%	--	+0.6%
12/30(水)	(韓国)11月鉱工業生産(前年比)	+0.5%	+1.0%	▲2.0%
12/31(木)	(韓国)12月消費者物価(前年比)	+0.5%	+0.6%	+0.6%
	(中国)12月製造業 PMI	51.9	52.0	52.1
1/1(金)	(韓国)12月輸出(前年比)	+12.6%	+5.6%	+4.1%
	12月輸入(前年比)	+1.8%	▲2.6%	▲1.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】～中国経済の堅調さを受けて輸出入は底入れが進む一方、国内ではディスインフレ基調が続いている～

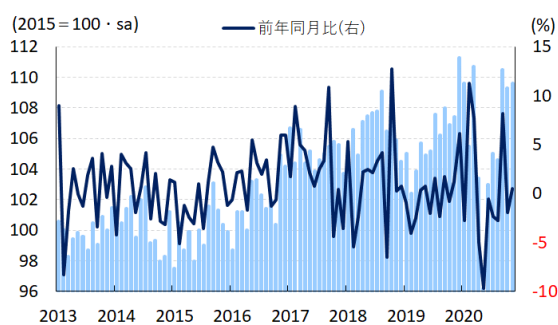
30日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+0.5%となり、前月(同▲2.0%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+0.27%と前月(同▲1.09%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。鉱業部門で生産拡大の動きが一段と強まっているほか、輸出財関連を中心とする製造業の生産にも底打ちの動きがみられるなど、幅広い分野で生産拡大の動きが出ている。自動車関連の生産は鈍化しているほか、縫製品など軽工業関連の生産も弱含む動きがみられる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などで生産拡大の動きがみられるほか、食料品関連などでの生産の底堅さも全体を押し上げる動きに繋がっている。平均設備稼働率も73.8%と前月(73.8%)から横這いとなるなど高水準で推移しており、生産底入れの動きが続いている様子がうかがえる。

31日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+0.5%となり、前月(同+0.6%)からわずかに伸びが鈍化した。ただし、前月比は+0.16%と前月(同▲0.10%)から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇しているほか、生鮮品を中心に食料品価格も上昇に転じるなど、生活必需品で物価上昇圧力が高まる動きがみられたことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.5%と前月(同+0.6%)から伸びが鈍化しており、前月比も▲0.01%と前月(同+0.65%)から2ヶ月ぶりの下落に転じるなど物価上昇圧力が後退している。エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れ懸念がくすぶる一方、通貨ウォン高

の進展を受けた輸入物価への下押し圧力を反映して幅広く消費財物価に下押し圧力が掛かっているほか、同国での新型コロナウイルスの感染再拡大による景気減速懸念の高まりを受けてサービス物価に下押し圧力が掛かるなど、全般的にデシインフレ基調が強まっていることが影響している。

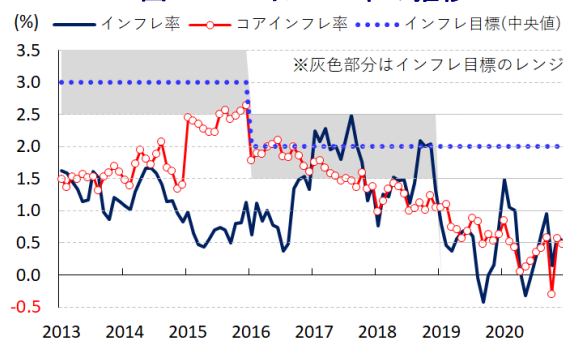
1日に発表された12月の輸出額は前年同月比+12.6%となり、前月（同+4.1%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れが進んでいる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連など幅広い分野で底入れの動きが続いており、欧米など主要国での新型コロナウイルスの感染再拡大による悪影響が懸念されるものの、中国景気の堅調さなどが押し上げに繋がっている。一方の輸入額も前年同月比+1.8%となり、前月（同▲1.9%）から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど輸出同様に底入れが進んでいる。輸出の堅調さを反映して素材及び部品などに対する需要が押し上げられているほか、原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きも輸入を押し上げている。結果、貿易収支は+69.44億ドルと前月（+59.04億ドル）から黒字幅が拡大した。

図1 KR 鉱工業生産の推移



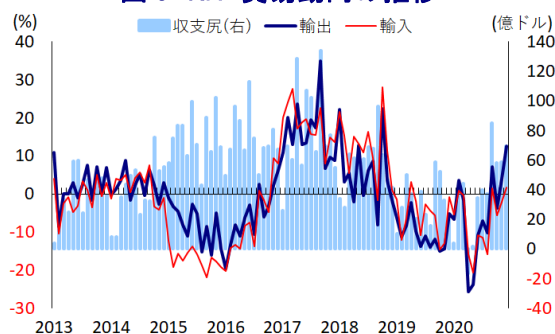
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 KR インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 KR 貿易動向の推移



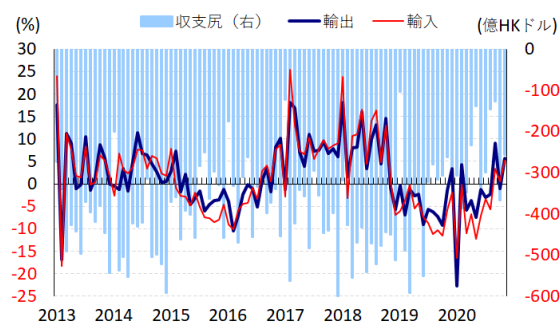
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[香港]～中国本土をはじめとする世界経済の回復の動きを反映して輸出入双方に底入れの動きが続いている～

28日に発表された11月の輸出額は前年同月比+5.6%となり、前月（同▲1.1%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、鉱物資源関連の輸出に頭打ちの動きがみられる一方、主力の輸出財である電気機械をはじめとする機械製品関連のほ

か、縫製品など軽工業関連など幅広い分野で底入れの動きがみられる。国・地域別でも、中国本土向けが堅調な動きをみせているほか、アジア新興国向けや欧米及び日本など先進国向けなど幅広い地域向けに底堅い動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+5.1%となり、前月（同+0.6%）から伸びが加速した。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いており、幅広い財で拡大の動きがみられる。結果、貿易収支は▲256.09億HKドルと前月（▲367.56億HKドル）から赤字幅が縮小した。

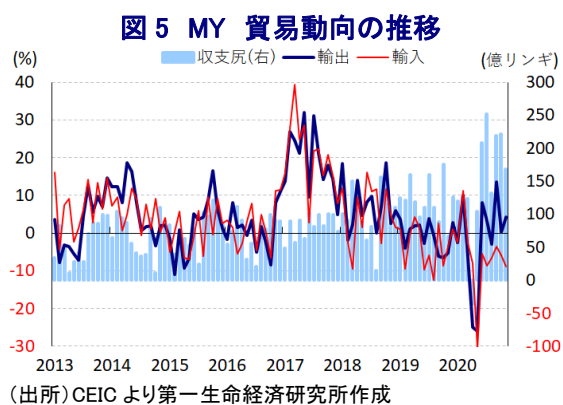
図4 HK 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～輸出に底堅い動きの一方、感染再拡大による景気減速懸念などを反映して輸入に下押し圧力～

28日に発表された11月の輸出額は前年同月比+4.3%となり、前月（同+0.2%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いており、世界経済の回復期待を背景に底入れしている。財別では、鉱物資源関連の輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、パーム油をはじめとする農産品関連のほか、主力の輸出財である電子部品や電気機械をはじめとする製造業関連の輸出の堅調さが全体を下支えしている。国・地域別でも、米国やEUなど先進国向けのみならず、中国やASEAN主要国などアジア新興国向けの堅調が輸出を下支えする展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比▲9.0%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲6.0%）からマイナス幅は拡大した。前月比も2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少するなど底入れの動きがみられた流れに一服感が出ている。農産品関連に堅調な動きがみられる一方、鉱物資源関連のほか、製造業関連で輸入に下押し圧力が掛かっており、幅広い地域からの輸入が鈍化するなど、同国内における新型コロナウイルスの感染再拡大による経済活動の鈍化懸念が重石になっていると考えられる。結果、貿易収支は+168.23億リンギと前月（+221.25億リンギ）から黒字幅が縮小した。



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。